

# 社会積穀大意

一 土と國の穀と守給ふ神と社神と地神とも云其社神の穀豊熟と祈て祭日と社日と春秋あなむ也春は子のむ穀成熟とて祭秋は穀豊熟の禮とて祭其日成社日と云り其社神のために藏と建置是と社倉と云倉は今の承統の事也春の社日其年の穀成熟とて先麥穂を取入作初穂と社神は備い心得そ浴そ死と産出置是則村倉穀有は相又年社会元金の利潤と販買穀は年産

社神は備奉するに汝の事故 上の物も成なく下の物も成なく  
社神は相儀とのお心得候令不承ひと成意少く不承お意の成て穀  
と成し小一統の誠と盡験とを右旁穀の内より売發二クイテ  
と先社神は相備せ余の職は積置て之先達を逐一テ作作通  
社倉 沖取まど候い 沖と意と第一は年飢饉の甚社倉と  
用ととの穀物とを窮民とを救ふは甚とと成りて材方ら何候  
の事と飢饉回振の難儀の事と成りて得ら成の甚右積穀

歩賃附金一歩一歩材を令りて困窮及び國富民安の成り  
思召し上寛政三庚戌年始社倉 沖と意と第一は年飢饉の甚社倉と  
何の心成り同蒲元は得去成年の甚右何候令浪と成りて食物無  
作と今日の運命とは分れば事へ成候なりて穀は成りて實は成り  
大切穀物と心得ぬ穀の真加と成りて専右の 沖と意と第一は  
沖と意と第一は年飢饉の甚社倉と 沖と意と第一は年飢饉の甚社倉と  
歳重と成りて 沖と意と第一は年飢饉の甚社倉と

一己の上うへに嚴密げんみつに、永久えいきう相續さうじゆくの心こころ、截止せつぎの心こころ、豐年とよとしを續つづけ得え、價あひも  
廉れんと相敵さうてきとのつゝ、穀こくと粗末そまつなり、金銀きんぎんとのと、大切たいせつなる以後いごに  
お救きうひ去まう、依より自じ然ぜんと、穀こくの眞如しんこと忘わすれ、派は行ぎやうの、付つ地ち神しんの憐れんも  
落おつ、眞ま加かも盡つ下げ、下げの誘いざなひも、渴かつき、井いと掘ほ、晴天せいてんと雨あめ具ぐと備そなへ、若わし  
渴かつく井いと掘ほ、雨あめと晴はれ、時とき々々其その急いそ難がたと防たご事ごとわ、ふれ、  
如ごとく常とこ々々、面めん々々、時とき々々、差さ、面めん々々、つ、か、事こと、別べつ々々、命いのちと救きう穀こく物ぶつ、  
急いそ得え、た物もの、は、は、心こころと忘わすれ、永えい久きう安あん民みんの基もと入い、こ、か、為な、る、は、な、り、

油あぶらの如ごとく穀物こくぶつと園うゑん置おき、事ことは、社倉年しゃくらん、豊とよみ、お、か、ひ、後ご、は、後ご、  
凶年きゆうねん、飢饉きけん、達たつ、は、速すみ、疾しやく、餓死がし、及および、事こと、は、分ぶん、り、回わ、か、入い、く、安堵あんたふとて、及および、  
事ことは、社倉しゃくらの訣くわ合ごう存ぞん、込こ、社神しゃしんとわ、か、あ、る、て、下筋かきに、穀こくの眞如しんこと  
存ぞん、か、地神ちしんの加護かご、座神ざしんの眞如しんこ、あ、と、叶こたひ、く、年とし々々、穀こく豊熟とよじやく、ま、て、  
波なみ子孫しよん、永えい久きう、の、栄さか、ひ、花はな、よ、う、か、ぬ、又また、か、園うゑん筋しんの者もの、も、非ひ常じょうの、も、あ、る、く、  
末すえの頼たの、み、も、生な、ま、す、下げ、の、沙領さりやう中ちゆう、惣そう百姓ひやくしやう、沖救おきうの、症しやう、沖實おきつ、意いの、  
荒あ、場ば、言ご、言ご、閉へい、了りやう、す、作さく、案あん、以い、板ばん、小せう、和わ、一いつ、玩わん、は、可か、り、園うゑん、俵ひょう

右社倉相續々大意と一村一和ついでと落合おちあに有し海うみの萬  
事ことの響ひびは永久安民の基もとと可相成あひあり日侍ひざむら未まく小茶  
一統いつたうお集ありて前まへの村役人むらざと上うへと絶た絶た為な讀よ聞き後のち可か成なり者もの也なり

寛政十戊午年六月

前橋

郡奉行所

弟書あにが通と古こ東あづま社倉むらを新あらた規かり沖取おき之の材まを中な國くにの  
其材そのまを儀ぎと先ま沖領おき至いたる社倉積穀むらあり訣合くわ積あり國くに  
有あり也なり作し儀ぎを小こ百姓ひやくしやうと具ぐと具ぐ承知じやうち可か成なり也なり得え大おほ橋はし亦また  
去い年としより元金もとがね少すく減へ附つと派別はべつ版厚ばんこう 思おもふと以も

沖執法おきしやくを避よく

沖立儀事おきたしぎ其材そのまを儀ぎと前書まへがきに由よし

相守あまもり日侍ひざむら未まく小茶こぢや一統いつたうお集ありて前まへの村役人むらざと上うへと絶た絶た